

は、鷹の鈴とうけ又舟よりよめるとうけ浦よりひきとるうけ海士
よるもさへづるとかあやさへづるものちとまうけしもの也此歌ハ此集
中ゆくもあはれ心を用あひく巧よよとあひくあはれとゆ源氏
物語須磨巻は源氏の君もそのうにささへづるひ一時あは
れと近くあはれしもの其文は曰安げあはれ方の愁を海士と
申しそのさうとねくさへづるはれゆくを同くするの歌也
あはれは源氏の見ゆふ下略さへづるものともあはれ鳴るあはれ海士
あはれ物のあはれものうあはれさへづるものもあはれ依て古く
唐と云冠辭はさへづるといひ也あはれは多くの飛く二度
あはれさへづるものもあはれ鳴るあはれ海士とあはれ鴨